

大学コンソーシアムあきた職員研修事業

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会（概要）

1 目的

高校と大学・短大等による連携が進んでいる状況を踏まえ、大学コンソーシアムあきた高大連携授業をはじめとする相互の連携の一層の活性化を図るため、高校・大学の関係者が一堂に会し協議等を行う場を設けた。会議には、秋田県教育委員会、各公私立高校、秋田県学術国際部及び大学コンソーシアムあきたからそれぞれ参加し、意見交換を行った。

2 開催日時等

- (1) 日時 平成20年11月6日(木) 13:30～15:00
- (2) 会場 カレッジプラザ
- (3) 出席者 別紙参加者名簿のとおり
- (4) その他 会議に先立ち、事前に高校及び大学等に高大連携授業に関するアンケート調査を実施した(4頁以降に集計結果)。

3 意見交換会の概要

会議においては、高校と特定大学との間で取り組まれている高大連携授業、秋田県教育委員会が主催するアカデミックトライアル授業、大学コンソーシアムあきたの高大連携授業などのこれまでの取り組みを振り返り、また、今年度から開講している秋田県教育委員会主催の「高校生パワーアップ推進事業『土曜講座』」など高校生を取り巻く状況を整理しながら、相互の情報交換や意見交換が行われた。

また、平成20年度戦略的大学連携支援事業に採択された「プロジェクト『4A』-連携による知のベース構築と『秋田戦略学』の展開-」の中で、高大連携授業などの連携授業も掲げているため、「プロジェクト『4A』」の事業説明を行い高校側の協力を求めた。

「プロジェクト4A-連携による知のベース構築と『秋田戦略学』の展開-」について(別紙参照)
「秋田の中等教育を支援する」: 活動内容の5つの柱のひとつとして高校生・中学生向け授業の開講等の中等教育・高等教育連携を掲げる

- ・今までの高大連携授業スタイルを改変。回数を7回へと増やし、成績評価を行うことで県内大学(プロジェクト4A参画校)に入学時に単位として認める方向で計画を進めている。(既存の高大連携授業=回数5回。成績評価を行わず、過半数の授業に出席した場合、修了証書を渡す。)
- ・プロジェクト4Aの参加機関8大学にe-learningシステムの導入と使用環境の整備を推進。e-learningを通して、高大連携授業を行うことも考えている。

意見交換会のポイントは次のとおり。

高大連携授業の単位認定について

- ・プロジェクト4Aでは単位認定対象の高大連携授業開催を想定している。

- ・現在のシステムでの高大連携授業の単位認定には、遠隔地から参加の生徒達と中央部から参加の生徒達の間で不公平感が生じる。
- ・単位認定を行うことで大学入学への動機付けになるのか疑問。

高校生がより参加しやすい環境の整備

(高校側意見)

- ・高校生側からみると高校生向け大学関係事業がそれぞれの機関から提供されている。日程的に重なることも多く、お互いに生徒を取り合っているのではないか。
- ・県北・県南の会場は大学に限らず交通の利便性を考え、会場に高校を設定することも考えて欲しい。
- ・高大連携授業の内容や開催日程など高校からの要望を聞いてもらえるのだろうか。

(大学側意見)

- ・出前講座・土曜講座・高大連携授業の情報の共有を行い、教育庁の土曜講座については、日程調整を行っていきたい。
- ・県北・県南地区で開催する高大連携授業には、各地域の高校間で連携を取っていただき、より多くの生徒の参加を促すようなシステムがあれば、と考える。
- ・高校側の講義テーマに関する意見など今まで、出てきていない。ぜひ、高校から要望や意見を出して欲しい。

高校生への情報提供方法について

- ・今までは、高校進路指導室を通じて広報資料を教員から生徒に提供している。今後、教員の負担感の軽減や高校生のより自主的な参加を目的に、ホームページのモバイル版を作成し、生徒が携帯電話から直接大学コンソーシアムあきたに申込ができるようなシステムを来年度より導入する計画。
- ・一方で教員から参加を促してもらうことで、参加生徒数が増加する。

4 コンソーシアムにおける今後の検討事項

上記の意見交換を踏まえ、高大連携授業に関する今後の検討事項を次に整理する。

(1) 高校側ニーズの把握

- ・高校側の要望が見えにくい。大学コンソーシアムから高校側の意見吸い上げを行うシステムの整備。

(2) 情報提供方法・内容の精査

- ・各大学主催・教育庁主催の高校生対象事業と大学コンソーシアムあきた高大連携授業の情報提供の状況について、現状では各機関が高校生対象に事業展開、また、情報提供も各機関がそれぞれ行っている。
- ・教育庁・各大学と情報を交換し日程調整を行った上で、高校側に情報提供をする必要がある。

(3) 県北・県南開催のさらなる推進

- ・交通機関等の利便性を考え、会場の設定を大学に限らず高校を会場にするなど柔軟な対応が必要。
- ・遠隔地におけるe-learningシステム適用の可能性を探る。

(別紙)参加者名簿

秋田県内高校と大学・短大による連携のための合同意見交換会出席者一覧

	機 関 名	職 名	備考
1	秋田県教育庁高校教育課	副 主 幹	
2	秋田県立鷹巣農林高等学校	教 諭	
3	秋田県立能代高等学校	教 諭	
4	秋田県立男鹿工業高等学校	教 諭	
5	秋田県立金足農業高等学校	教 諭	
6	秋田県立秋田南高等学校	教 諭	
7	秋田県立秋田新屋高等学校	教 諭	
8	秋田県立本荘高等学校	教 諭	
9	秋田県立由利工業高等学校	教 諭	
10	秋田県立西目高等学校	教 諭	
11	秋田大学	教育推進主管・教授	
12	秋田大学	准 教 授	
13	秋田大学	特任教授	
14	秋田大学	課長補佐	学務部教務課
15	秋田大学	教務企画係	学務部教務課
16	秋田県立大学	理事(教育担当)	
17	秋田県立大学	スタッフ	教務・学生課
18	国際教養大学	准 教 授	
19	国際教養大学	参事兼教務課長	
20	ノースアジア大学	教養部長・教授	
21	秋田看護福祉大学	看護福祉学部長	
22	秋田公立美術工芸短期大学	教授・大学開放センター所長	
23	秋田公立美術工芸短期大学	准教授・教務委員長	
24	秋田公立美術工芸短期大学	主 事	学生課
25	秋田栄養短期大学	短大部長	
26	聖霊女子短期大学	教務部長・教授	
27	日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科長	
28	日本赤十字秋田短期大学	学務課長	
29	聖園学園短期大学	准 教 授	
30	秋田工業高等専門学校	准 教 授	
31	放送大学秋田学習センター	所 長	
32	秋田職業能力開発短期大学校	助 教 授	
33	秋田県学術国際部学術国際政策課	政 策 監	
34	カレッジプラザ	副 主 幹	学術国際政策課
35	カレッジプラザ	主 事	学術国際政策課

県内各公立高等学校に対するアンケートとその結果

高大連携合同意見交換会 高校用 事前アンケート集計結果

<アンケート対象校>

- ・対象校 県内高校60校（県北地区18校、県央地区23校、県南地区19校） 定時制含む
- ・回答数 県内高校52校（県北地区14校、県央地区20校、県南地区18校）

Q 1 貴校では、高大連携授業を生徒に積極的に活用してほしいと考えていますか？

（ は1つ）

		回答数	構成比
1	そう考える	31	61.0%
2	ややそう考える	13	25.0%
3	どちらとも言えない	6	11.0%
4	あまりそう考えない	2	3.0%
5	そう考えない	0	0%
6	無回答	0	0%

Q 2 貴校では、高大連携授業をよりよい仕組みとするために、どのような取り組みが有効だと考えますか？

（ はいくつでも）

		回答数	構成比
1	受講実績について高校で単位認定を行う	15	17.8%
2	受講実績について大学で単位認定を行う	7	8.3%
3	受講実績を開講大学の推薦・AO入試で評価に加味する	27	32.1%
4	県北・県南各地域での開講科目数を増やす	30	35.8%
5	その他	5	6.0%
6	無回答	0	0%

その他...

- ・夏、冬、春休みなどの長期休みに集中して開講する。
- ・平日の開講をやめて、土曜日のみとする。
- ・県北、県南とともに由利本荘地域でもお願いしたい。
- ・出張講座なども併せて実施したらどうか。
- ・県内高校と総合教育センターをむすぶLANを用いて、実況ないしオンデマンドで授業を配信するなど、インターネットの活用はどうか。

Q3 今年度の高大連携授業は、前年度に比べ開始時期を1ヵ月遅らせる、1回のみ受講も認める、といった変更点がありましたが、学校での指導等にメリットはありましたか？

県北地区 14校から寄せられた意見

(メリットがあった...3校、メリットは特になかった...7校、無回答...4校)

- 1 とても有り難かった。参加しやすい。
- 2 学びの機会が増えた点において、1回のみ受講が認められたことは指導上のメリットであった。
- 3 受講しやすくなった。
- 4 特に感じませんでした。県北地区開催の講座が少なかったためだと思います。
- 5 1か月遅れは特に無し。1回のみは、遠い所から通う場合メリットはありました。
- 6 本校では大学進学者が少なく、また近くに大学がないので特に変化はありません。
- 7 地域的に交通の便が悪く、あまりメリットはなかった。(秋田市にも、大館市にも、1時間以上かかるため)

県央地区 20校から寄せられた意見

(メリットがあった...11校、メリットは特になかった...9校)

- 8 生徒に周知させるうえでよかったと思う。
- 9 今回の変更点は、申し込みしやすい条件になっていると思う。
- 10 以前より受講しやすくなった。
- 11 学校行事と重なった場合、欠席しなければならない時もあるので、1回のみ受講は良かったのではないかと。
- 12 募集等に余裕をもって行うことができたため、受講者も増え、よかった。
- 13 部活動や秋田まで電車で行くことを考慮すると、本荘高校の生徒にとって受講しやすい方向に進んだと思います。
- 14 開始時期が遅くなったため、生徒への周知・募集期間にゆとりがあって助かった。
- 15 生徒の進路をある程度把握した上で、授業を生徒に薦めることができた。
- 16 残念ながら、今年度の受講者がゼロであったが、遠距離にあるため、1回のみ受講が可であることは受講しやすいと思う。
- 17 出席しやすいよう条件整備をしていただいたことで、生徒に対して進めやすくなりました。
- 18 特にメリットもデメリットもなかったと思うが、事務処理上は、メリットはあったのではないだろうか。

県南地区 18校から寄せられた意見

(メリットがあった...5校、メリットは特になかった...12校、無回答...1校)

- 19 開始時期が変更になったことで生徒が参加しやすくなった。

- 20 1日で集中講義を完結させることで生徒は参加しやすくなったようです。1日完結の講義を増やすと、受講者は増えると思います。
- 21 生徒に勧めやすくなった。
- 22 1回のみを受講可ということで多くの生徒が受講可能になったと思われるので、メリットはあったと感じる。
- 23 距離的な問題が大きく、今回の変更点についてはメリットはなかったと思います。
- 24 本校では特に反応が目立ったものはなく残念でした。
- 25 受講者がいなくて残念でした。従って、特にメリットはありませんでした。
- 26 参加者がいなかったなので、メリットはなかった。
- 27 参加者がおらず残念に思う。
- 28 メリットはありません。開始時期や1回を受講を認めるより、場所が問題である。
- 29 メリット、デメリット共に特にありません。

Q 4 高大連携授業や、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

県北地区 14校から寄せられた意見

- 30 募集に関して、進路指導主事が取りまとめるやり方をやめてほしい。最近は特に校務が多忙で、年2回の募集業務は負担である。募集のためのパンフレット等は配布してもよいが、生徒が個人で申し込む形にぜひとも改めてほしい。
- 31 地区的に生徒が開講大学へ通うことが難しい。
- 32 鹿角から大館までの交通費も苦しく、参加できなかつた例がありました。
- 33 交通の関係上、平日の授業終了後に秋田市まで行くのは負担も大きく時間もかかる。遅刻してしまう場合もある。県北、県南地区での開講の機会が増えてほしい。
- 34 特に1年生に受講させたい。進路決定の参考にさせたい。
- 35 以前、受講者が少なく実施できなかった事があったので、対策を考慮して欲しい。距離的に、秋田市での実施には参加者が出ない状況にある。
- 36 学校としても、様々な願いをしておりますが、快くお引き受けいただき感謝しております。今後とも、連携を深めていただければと思います。
- 37 能代からは、平日の授業には、時間に間にあわず、参加できません。なるべく、秋田市での授業は土曜日に行っていただければありがたいと存じます。

県央地区 20校から寄せられた意見

- 38 例年県内各大学・短大さんには御協力いただき、今後もこれまで以上に連携を強めていければと思っております。
- 39 今後も継続して開催して欲しい。
- 40 大学の出前講座など増えているが、希望が少ない分野では利用して受講させたい。
- 41 工業高校の性格上、ものづくりや科学的な内容に生徒は興味を持っていた。

- 42 知的好奇心の高い生徒や当該の大学（短大）に進学を予定している生徒にとっては有益な事業だと思う。
- 43 今現在実施されている内容で十分だと思います。
- 44 オープンキャンパスの案内や出前授業などを積極的に実施していただけるようになり、大学が身近なものになってきました。大変ありがたいと思っています。
- 45 10月4日（土）の特別企画（20年度後期）は好評であった。
- 46 申込みまで高校で行って、以降はコンソーシアムさんの方で様々な連絡等をしていただき、高校の負担を減らしていただいているのを助かるが、現在の形のままで真の連携と言えるのか疑問である。
- 47 6月の初旬の開始で、3年生が全県総体、東北大会と重なり、申込みをして、楽しみにしていたのにもかかわらず、参加できなかったことがありました。高校側の都合で申し訳ないですが、開始日時を考慮していただけたらありがたいです。
- 48 平日放課後の開始時間をもう少し遅らせることが可能であれば、本荘から出ていくには助かります。
- 49 Q2で解答した通り、単位認定や出前授業など組み合わせたらどうだろうか。
- 50 高校側にどの生徒がどの講座を受講できることになったか、できれば知らせて欲しい。

県南地区18校から寄せられた意見

- 51 大学での学習内容を知るため、学習意欲を高めるために良い企画であると思います。
- 52 オープンキャンパスや学校見学等でお世話になっており、ありがとうございます。また、出前授業等も実施されており、今度活用して、生徒の進学意欲を高めたいと思っております。これからもよろしく願います。
- 53 県南での開催など考慮していただき感謝しております。
- 54 生徒にとってとても良い機会なので生徒がどんどん参加、利用してくれればと願っているのですが。
- 55 続けて行ってほしい。
- 56 県南には高等教育機関がないため、大学の授業がどのようなものか、大学で行われている先端的な研究はどのようなものなのかを子供達が目にする事ができません。県南で開催することで子供を刺激していただきたいと思えます。
- 57 申し込みまでの期間に余裕が欲しい。
- 58 長期休業中に、県北や県南での開講を増やせれば受講者も増えると思えます。ただ、生徒ひとりひとりへのチラシはいりません。必要があれば、各校で、印刷してもらったらどうでしょうか。
- 59 県南地区開催の科目数が増えれば参加者も出てくると思われます。
- 60 Q2にもあったように、地理的に参加困難なために断念する生徒もいるため、中央以外でのより多くの開講が望まれる。
- 61 魅力的な講義が多いが、遠距離であることが多く、参加できないでいるようです。

- 62 志望校が決まった生徒にとって高大連携授業は有意義な取り組みであり、学習意欲が更に向上する好機となっているため（連携）活用例や実施内容等が冊子になったものがあれば機会が更に増えるのではないのでしょうか。
- 63 県南に大学・短大が立地していない為、他地区に比して参加がむずかしい。一方、この連携授業をつうじて、学ぶことへのモチベーションを高めることが出来ることは生徒にとって大きなメリットである。Q2回答にも記したように、何か新しい策も検討していただけると幸いである。

県内各高等教育機関に対するアンケートとその結果

高大連携合同意見交換会 大学・短大等用 事前アンケート集計結果

<アンケート対象校>

- ・対象校 県内高等教育機関 13校
- ・回答数 県内高等教育機関 13校

- Q1 貴学では、高大連携授業の意義を、(ア)県内高校生への自学のPRの機会、(イ)地域貢献活動の一環、のどちらに置いていますか。 (は1つ)

		回答数	構成比
1	(ア)に置いている	2	15.4%
2	どちらかと言えば(ア)	4	30.8%
3	どちらとも言えない	3	23.0%
4	どちらかと言えば(イ)	3	23.0%
5	(イ)に置いている	1	7.8%
6	無回答	0	0%

- Q2 貴学では、高大連携授業をよりよい仕組みとするためにどのような取り組みが有効だと考えますか？ (はいくつでも)

		回答数	構成比
1	受講実績について高校で単位認定を行う	5	26.3%
2	受講実績について大学で単位認定を行う	4	21.1%
3	受講実績を開講大学の推薦・A0入試で評価に加味する	5	26.3%
4	県北・県南各地域での開講科目数を増やす	5	26.3%
5	その他	0	0%
6	無回答	0	0%

Q 3 高大連携授業に対するご意見・ご要望をお寄せください

- 01 大学での単位認定(入学後)制度を大学で導入した場合、生徒がよりその科目(又は大学)に興味を持つようになるか?又、受験するモチベーションになるか?について各高校の御意見をうかがいたい。
- 02 県北での開催の際には、前年までの参加者の多い高校や交通アクセスの良い高校で開催できませんでしょうか。
- 03 高校生のニーズに合った授業を提供できるように、事業評価を行い、より積極的な方向へ改善していくべきではないだろうか。
- 04 「募集案内」には、開講科目名とキーワードだけでなく、それぞれの回の講義内容がわかるような説明(シラバス)があってもよいのではないのでしょうか。(紙幅の関係もあると思いますが。)
- 05 受講状況から高校生が受講を希望する授業内容に地域差があるように感じられます。高校側からの具体的要望を聞くことが出来れば参考になります。
- 06 Q 3・4については、全学的議論が成されておらず、正確な回答はできませんが、現在、具体的な要望等は、ありません。
- 07 高校側の具体的な要望を知りたい。
- 08 本学の場合、講師が毎回入れ変わり、講義の内容が多岐にわたる。机やイスが移動可能な部屋がよい。
- 09 受講希望者が多数参加できる工夫等をお願いしたい。(高校行事と重ならない様に調整する等)

Q 4 高大連携授業に限らず、県内の大学・短大等との連携についてご意見・ご要望をお寄せください

- 10 校長レベルだけでなく、現場(教員)レベルと大学の教員レベルの話し合い(後々の課題について)の機会を持つ必要がある。
(例)・理科ばなれ・高校のカリキュラムと大学の教養基礎教育
- 11 各大学の特色ある科目を、それぞれの大学で開催し、高校生にわかりやすい授業を行ってはどうか。
- 12 高校への出前授業も考えている。
- 13 県内高校との連携を強化することで、県内大学・短大への進学者を増やすことができれば、有意義である。
- 14 このような意見交換会をこれからも定期的を開いてほしい。
- 15 連携授業以外での連携について、協議する場を設けてほしい。